

がどのくらいいるかというようなことでございますが、福生市の場合小中学校に七十五名の主任がおります。そのうち西教組に加盟しているいわゆる組合員は四十三名でございます。比率といたしましては五七・三〇でございます。また、主任制を教員たちはどの程度理解しているかの御質問でございますが、大半の教員は主任制を理解し、自覚していると思います。それは、主任に任命された教員が、それぞれの職務を果たしておるわけでございます。たとえば制度化主任は、職務上からは定着が進んでいると思います。校外での主任としての処理、教務主任会議等いろんな会議でも出席をしているわけでございます。

それから次に、十一番目の関係でございますが、上級進学率等でございます。生徒の進路に対する認識と対処についてでございますが、福生市の教育委員会の学校教育の指導目標の重点項目の一つといたしまして、進路指導の徹底ということも取り上げてございまして、学校長を通じて、生徒一人一人を生かす指導を

をすることによって、生徒や保護者の期待にこたえるよう指示してまいっているところでございます。学校長もその趣旨に沿って、それぞれ教職員の指導に当たっております。

なお、進学率についてでございますが、五十七年度の市の中学校三校の卒業生は七百三十三名でございました。そのうち進学者は六百八十二名で、九三・〇％になっておるわけでございます。

次に、最後の十二番目の御質問でございますが、いわゆる落ちこぼれ生徒の関係もあるかと思えますけれども、これは、学級編成を行う際に、それぞれ等質編成をしているわけでございまして、その学級の中には、意欲を持つ生徒、無気力な生徒も当然おるわけでございます。それで、進度のおくれている生徒につきましては、補充指導とか個別指導を実際やっているわけでございます。また、夏季休業中、いわゆる夏休み中でございますけれども、いわゆる進度のおくれている生徒を集めまして、特別な指導をやっている学校もあるわけでございます。要は、一人一人に応じた指導

を徹底していくことではなけねばまずいんではないかというふうに考えております。

また、全国の公立学校で、学力の差がありながら両方が伸びるよい例があるとの御質問でございますけれども、これは、いわゆる公立学校の場合、同じくらしいの生徒を集めてクラス編成し指導するといったことはむずかしいことでございまして、都立研究所の経営研究部、教育の方の担当の先生にお伺いしたところ、全国の中学校の研究便覧の中から、結果まではわかりませんが、そのような研究校があるということがございまして、これは一つの例といたしまして、大分県の佐伯市の中学校でございしますが、目標、といたしましては、一人一人を大切にいたしまして学力を高める指導はいいにあればよいかというふうなことでございまして、これで、そういうような問題で、各実践校でやっているのでもございしますが、われわれ残念でございますけれど、この結果がどうなったというふうなことは、その報告の中にならぬわけでございまして、われわれといたし

ましても、こういうようなことを重視いたしまして、できれば先進地でもお伺いしたらどうかというふうに考えております。

以上十二問でございますが、われわれといたしまして、児童生徒のためにぜひかんばって、いろいろな問題を対処していきたいというふうに考えております。

簡単でございますけれども、御答弁にかえさせていただきます。

○ 一番（林田 武君） ただいまの御答弁ありがとうございます。

まだまだ聞きたいことはいっぱいあるんですけれども、任期は四年間ありますので（笑声）要望だけさせていただきます。

日教組の問題にいたしても、私が申し上げましたから改めるといふような日教組でないことは、私も十分、百も承知であります。しかし、学問を教えるべき教員たちが学校の授業にも出ないで違法ストに参加したり、イデオロギー闘争であるまじき精力を費やす。この日教組員の現状を、市民は篤と知る必要があると思ひます。市民が少しづつでもこの現実を知っていけば、それがいつ

かは大きな渦となって、教員たちも本当に自分たちの国を愛し、人を愛し、世のため、人のためになるような教育者としての自覚が出てくるものだと思っております。

校長先生が教員を信頼し、教員もまた校長先生を尊敬する信頼と信頼の中にこそ本当の教育があるのだと思います。市長も、市議会議員も、教育に携わる関係各位全員が肝に銘じて、うそのない本当の教育と真剣に取り組んでいていただきたいとの要望をもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（田村市郎君）次に、十一番 原 敏子君。

（十一番 原 敏子君 登壇）

○十一番（原 敏子君）三点にわたり一般質問をさせていただきます。まず一点目、教育問題について、中学校の校内暴力についてお尋ねいたします。

今日の中学生を中心に起こる非行問題は、ただ単に、一部の

生徒が悪いかうだと言って済まされることではありません。子供たちがいまどういう状態にあるのかということをお私たちがしっかり見つめ、つかまなければなりません。子供たちの間に深刻な心身の発達の危機が広がっています。子供らしい、活気にあふれた積極的な遊びや活動、豊かな友達とのぶつかりあい、親や兄弟との团らんや触れ合いが乏しくなり、しっかりした自律のための足腰や人間らしい豊かな心を育てられない子供たちがめっきりふえています。そういう弱さをいっばい持った子供たちが、人々の中でもっと大きな困難にぶつかる青春期につまずき、いう立ち投げやりになる姿、これがいまの中学生の非行の姿のあらわれではないでしょうか。人間にとっていつの時代にも共通している青春の困難は、いまの時代には、二重、三重になって子供たちにのしかかっています。受験地獄、能力主義教育、社会や未来への不安等々、さらにこの青春の歩みを支えてくれる語り合える友達、心から励ましてくれる親や教師、信頼してついていける大人たち、積極

的な活動の機会、そのどれもがいまの子供たちに不足しています。こういう状態の中で、子供たちの非行、特に暴力事件が起きているのではないのでしょうか。私たちの身近でも起こった子供たちが暴力を振るう、また子供たち同志の暴力、リンチなど、心が痛む状況が生まれています。

しかし、どんな子供でも人間らしく生きたいと願い、生きがいのある人生を求めていることに変わりありません。俺なんかどうなったっていいんだという言葉は、俺だってまともに生きたいんだという言葉として聞く必要があると思います。そして、子供たちはやりがいのある創造的な活動では、燃えてすばらしい力を見せます。また、生きがいのあること、役に立っている誇りや喜び、愛する者の心がかめたときは、どんな子供でも立ち直る可能性をみんな持っています。私たち大人が、今日の非行、暴力などの問題の深い原因を解明し、子供たちの願いや叫びを聞き取り、子供たちを信じ、励ます立場に立つことが必要ではないでしょうか。

悪は悪として毅然と指導する立場に立ちながらも、子供たちの過ちを成長途上のつまずきとしてとらえ、子供を信じ、励ます指導が特に求められていると思います。一中、二中で起きた校内暴力について、このような立場に立っての今後の対策を考えられるよう希望する者です。

五月に起きた福生市での校内暴力について、教育委員会としてはその原因についてどのように考えられているか、一つ質問させていただきます。

二つ目、基地問題について、米軍 横田基地での訓練、騒音についてお尋ねいたします。

ことは、例年にないくらい米軍横田基地での騒音が激しさをましています。チームスピリット（おを皮切りに、五月十七日から始まりましたミッドウェーの艦載機の訓練は夜間にも及び、市民の皆さんからも何事が起こったのかという問い合わせも相次ぎました。このままこのような騒音が続けば、子供がノイローゼになってしまう

うという母親の心配から、横浜市で起きた米軍機の事故が、そして飯能市への大型ヘリコプターの不時着の事故など、いつ市内で起こるかという不安もあり、市民は安心して夜も眠れないという状態が続きました。五月の演習は、低空飛行で行ったための騒音もひどく、また、事故も起こりやすい状況にあったのではないかと思います。

市長は、このように市民に不安を与える米軍への演習に対してどのような考えられ、どのような対策を取られたのかお聞かせください。

三点目、市の保養施設についてお尋ねいたします。子供たちが楽しみにしている夏休みも、もうすぐです。市民のための保養施設の設置については、再三私も質問してまいりました。市民の皆さんが、だれでも気軽に少ない費用で利用できる保養施設の設置が求められています。五十五年の九月議会での私の一般質問の答弁で、田村市長は、

市民が気軽に安く楽しく過ごせるような施設をつくる必要があると答弁されました。この市長の答弁後、数年たちましたが、その後の経過はどのようになっているか、お聞かせください。

以上三点、私の一般質問といたします。

○議長（田村市郎君） 三時四十五分まで休憩いたします。

午後三時三十三分 休憩

午後三時四十五分 開議

○議長（田村市郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（市長 田村匡雄君 登壇）

○市長（田村匡雄君） 原議員さんの御質問にお答えします。

教育問題については教育委員会の方で答弁申し上げますので、お聞き取りいただきたいと思います。

基地問題について、米軍横田基地での訓練騒音についてでございますが、これしに入っの一連の横田基地での艦載機の訓練に

つきましては、大変市民に迷惑ををかけているわけでございます。市といたしましては、この訓練につきましては、通告があった段階で防衛施設庁に強く訓練の中止を申し入れております。しかし、何分にも横田基地は日米間の協定に基づき米軍基地でございます。したがって、市街地でございます横田基地での訓練は、中止または必要最小限にとどめ、でき得れば横田基地以外の所に移してもらいよう。今後とも防衛施設庁等の関係機関を通じ、米軍に申し入れていくつもりでございます。

次に、市の保養施設について。

保養施設につきましては、市の基本計画にもございますように、設置について現在、いろいろな角度から検討を進めておりますが、保養施設のある各市の状況を調べてみますと、以前は、多額の資金を投入し、用地を買収し、建物を建設するという所有形態のもので大勢を占めておりましたが、市民は、一度利用すると二度目の利用者は減少するという傾向にあるようです。そこで、広

範な住民を対象とした保養施設であれば、効率的な利用が図られますので、現在設立準備中の西多摩地域広域行政圏で実施したかどうかと検討してまいりたいと考えているところであります。

答弁を終わります。

○教育長（林田 猛君） それでは、私の方から教育の問題につきまして御答弁申し上げます。

非行の原因をどのように考えているか、でございますけれども、先ほど来、小野沢議員さん、林田議員さんからも指摘されておるわけでございますが、それらが大きな要因であるというふうに私も考えております。

なお、細かく言うならば、問題行動の要因でございますが、児童、生徒の持つ問題、学校における問題、それから家庭における問題、社会における問題と、大体この四つぐらいに分かれるのではないかというふうに私考えております。

児童、生徒の関係でございますけれども、生活に対する充足感

の不足、協調性または連帯感の欠除、学習意欲の低下、自主性、対応の欠除というようなことが一般的に言われているし、われわれもそうではないかというふうに考えております。

学校関係で申し上げますと、人間関係の希薄の問題、教師と児童、生徒の人間関係、児童、生徒の人間関係等もあるし、指導態勢にも問題があるのではないかというふうに考えております。それから、学習指導でございしますけれども、わかる授業、いわゆる落ちこぼれ、また、あるいは落ちこぼしという言葉が使われておりますが、こういう問題、家庭と学校との連携の不足もあるように考えております。と申しますのは、最近、共稼ぎの家庭が非常に多くなりまして、学校からの連絡が十分にいけないというようなきらいもあるようでございます。

家庭における問題といたしましては、親子関係のゆがみもあるだろうし、過保護、過干渉、放任主義、無関心、しつけ不足も考えられます。

そういうふうなことがあるし、社会におきましては、社会全体のいわゆる享樂的風潮だとか、テレビ、雑誌等の影響、それから、児童生徒の健全育成を阻害するような施設、たとえばゲームセンター、自動販売機等もあるかと思ひます。それから、集団遊びの不足だとか、地域社会の連帯感の問題等、数々あるのではないかというふうに言われているし、事実、そうじゃないかというふうにわれわれも考えております。

○十一番(原 敏子君) それでは、自席から再質問させていただきます。

では、順を追って、教育の問題から質問させていただきます。

先ほどの小野派議員の質問の中で、教育長が答弁されました、教育長の考え方としても、暴力は絶対否定するというふうに先ほど答弁いただきましたが、その立場に立って質問させていただきますか、と思います。

現在の福生の中学校で、中学校での教師からの体罰、教師が生徒に行く体罰、そういうものは現実にはあるのでしょうか。そ

れをひとつお聞かせください。

先ほどの答弁の中で教育長が言われましたが、暴力は絶対否定するという点では、私は大賛成でありまして、そういう教育長ですから、指導をなさっている校長としても、暴力は絶対否定するような指導をずっとされてきていると思うんですけども、そういう中での暴力事件が起きたわけですが、今後、このような対策といたしまして、いま教育長が私の答弁の中でも言われました、なぜこういう問題が起きるのかという点では、いま教育長が言われました人間関係の問題とか、テレビや雑誌の問題、まあ、ゲームセンターとか自動販売機、数々あると言われましたが、私もそのとおりではないかというふうに思いますが、そういう中で考えてみますと、今後この校内暴力をなくす対策としては、福生だけでどんなにがんばっても、なかなか社会関係がありますので、むずかしい面はありますが、そういう中でも福生の教育委員会としてはがんばっていただきたいと思いますんですが、非行問題を扱っ

た映画だとか、よく言われるいい映画だとか演劇など、先生や生徒に見せてはいかかかというふうに私は思うんですが、そういう考え方。

そして、ゲームセンターが御承知のように市内にも何カ所がありますけども、そのゲームセンターの規制ですね、営業権の問題があるからなかなかむずかしいでしょうけども、せめてカーテンだけは取り払って、お店の中が見えるように、そういうふうに指導ができないものなのかどうなのか、それをひとつお答えいただきたいと思います。

それと、教職員、父母、市、それと専門機関で教育委員会ですね、それと行政などひびきをつき合わせて、地域の子供たちの健全な成長をどうしたらいいかというそういうふうな、青少年協がございまずけども、それだけではなくて、いまこういう事態が起きているときだからこそ、もっと幅広い父母や教職員や行政、教育委員会とそういうところでひびきをつき合わせた、そういうふうな連絡会

みたいなものが持てないのかどうなのか、そこを聞かせていただきたいというように思います。

それから、基地の問題を聞かせていただきます。

今回の、いま市長が言われました通告があったときに抗議をしていくというつもりですが、今回のこのミッドウェーの艦載機の訓練ですが、これは、米軍から連絡が入ったのはいつの時点か、もう少し詳しくお聞きしたいんです。十七日から五日間、二十三日から五日間だということに一応記憶しているんですけども、その訓練に対して米軍あるいは防衛施設庁がいつごろ連絡してきているのか、それについて抗議をされたというふうに思いますが、その関係。

それと、市長の答弁の中で、できるだけ必要最小限にしてもらうよう米軍に申し入れるというふうに言われましたけども、こういう訓練はいつどうなるかわからないというふうな、危険度が非常に高いものだというふうに私は考えるわけですけども、こういうふうな一自治体の長の権限でそれをやめさせるわけにはいかない

というふうに答弁をこれまでもされておりますけれども、四万九千市民の命と暮らしを守るという点から考えるならば、私は、こういう訓練はしてもらおうと困るというふうに思いますが、その点市長はどのような考えられているか、聞かせてください。

それと、保養施設の設置ですけども、市長は効率的にするために西多摩地区広域行政圏で考えた方がいいというふうに言われましたけども、では、五十五年の九月のときに私が一般質問した中で、市長はこういうふうに答えていられます。「基本計画にも

あるように、市民保養所としての設置をする計画でございます。今後、実施の時期、設置場所、また施設について所有方式か借用方式かにつきましては、検討してまいりたいと思います。いずれにしても、市民のために気軽に安く楽しく過ごせるような施設をつくっていく必要があると思うわけでございます」というふうに答弁されているわけですが、この中で、いまの市長の答弁では、所有方式というのとはななかうまく福生市でもいっていないということで、そ

れなる借用方式という方法がとりれるわけですが、それをいま市長の答弁を聞きますと、では、五十五年九月こういうふうな答弁されましたけれども、その後の何年間は、この問題についてはどんな経過もなかったんでしょうか。なければならぬ仕方ありませんけれども、それだけ聞かしてください。

○市長（田村匡雄君） 自席から御答弁させていただきます。

ミッドウェーの艦載機のごとでございますけれども、いつこういった連絡が入ったのかというようなことでございますけれども、艦載機の訓練を五月の十六日から五月の二十日まで、それから五月の二十三日から五月の二十七日まで、十九時三十分から二十一時三十分まで訓練をしたいと、一機ないし二機が横田周辺を飛行するというようなことでございまして、私もこの二十一時三十分、要するに九時三十分は少し遅いんではないかというようなこととていろいろと防衛施設庁とも話をしたんでございますけれども、やはりこれは日役の関係で、冬ならばもう少し早いんだらうというようなこととて、防衛施設

庁でもはつきりはなかったんですけれども、夜間訓練ということとで、このような時間だということとてございます。それで、連絡を受けたのは五月の十四日の十一時、防衛庁から連絡を受けています。

先ほども申し上げたとおり、できるだけ訓練は、仕方がないというわけじゃないですけれども、できるだけ横田を使わないでほしいと、また、福生上空は市街地でございますので、特に、ひとつ遠慮していたきたいということも、その都度申し出をしておるわけとてございます。

次に、保養施設の件でございますけれども、この施設の件につきましては、市の幹部等と数回会合を開いたわけとてございますけれども、現在のところ、やはり金銭的にも非常にかかるというようなことで、どうしても一カ所に決めますと、どうしても市民が飽きがるであろうというようなこととてございまして、ことしはあるいは海で、来年は山とか、いろんな問題があるんでございまして、たまたま先ほど申し上げたとおり、広域圏の話し等も出ております。